

くすり博物館だより

The Naito Museum News

No.78 2024/6/14

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel. 0586-89-2101 / Fax. 0586-89-2197
<https://www.eisai.co.jp/museum>

登録博物館に認定されました！

2023年度の博物館法改正により、私立博物館が登録博物館として登録可能になりました。当館は法改正が行われた2023年から岐阜県庁に登録申請をしてまいりました。そして、無事2024年5月31日をもって登録博物

館として認定されました。

これは日ごろの皆様からのご利用あつてのことと思います。数少ない医学・薬学の総合博物館としてこれからも活動して参ります。



🌸 薬草・ハーブガーデンフェスタが開催されました 🌸

2024年5月18日に、3年ぶりの春フェスタが開催されました！新型コロナウイルスの流行により一時的に中止していたフェスタですが、昨年2023年10月21日の秋フェスタから「薬草・ハーブガーデンフェスタ」と名前を変えて再開しました！

リニューアル後は、飲食系の出店業者の方にも来ていただき、お昼ごはんも楽しめるフェスタになりました。また、フェスタごとに講師の方をお招きし、薬草についての講演会をしていただいています。見頃の薬草を見て、薬草を食べ、薬草についての講演会を聞く。薬草・ハーブにどっぷりと浸かるハーブづくしの一日はいかがでしょうか。

2024年 秋の薬草・ハーブガーデンフェスタは10月19日の開催予定です。皆様のお越しをお待ちしております！



図：フェスタ開催時の様子

2024年度企画展を開催しております。

企画展

2024年4月26日(金)
～2025年3月30日(日)

だれもが
安心できる
社会に向けて

認知症のいま

内藤記念くすり博物館・内藤記念科学振興財団共催
2024年4月26日(金)～2025年3月30日(日)

内藤記念くすり博物館では、2015年に認知症の最新情報を紹介する企画展を行いました。

しかし、この9年間で、社会は大きく変化しました。わが国の高齢化率は、2022年に29.1%と過去最高値を記録し、2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されています。行政もこの10年間数多の政策(オレンジプランから新オレンジプラン総合戦略)を打ち出していましたが、さまざまな問題の解決には至りませんでした。そこで2023年度には、認知症基本法(共生社会の実現を推進するための認知症基本法)という法律を公布・施行し、より力を入れて認知症問題の解決に取り組み始めました。

このような背景を鑑みて、本年度は「認知症のいま」に重点をおき、認知症に関する問題と希望について紹介することにいたしました。



図：企画展会場入り口

はじめに、現在全国で取り組まれている認知症への取り組みや認知症の原因・症状を取り上げたほか、その実態が次第に明らかになりつつある若年性認知症について取り上げております。AMED※の調査によると、全国の18～64歳の若年性認知症の発症者数は3.75万人と推測されています。若年性認知症には、従来の高齢者の認知症との付き合い方がそのまま適用できないケースも多くみられ、経済的社会的不安を抱えている人も少なくありません。

例えば、若年性認知症の人は高齢者の認知症の人と比較して体力がある傾向にあり、行動範囲も広いいため、高齢者向けのプログラムが多いデイサービスの中から、自身の生活スタイルに合った居場所を探すことが難しい等の課題などがあります。このような若年性認知症特有の課題に関しては、ご本人やご家族の想いをインタビューを通じて紹介させていただいております。

しかし、問題ばかりではありません。2023年度は認知症基本法の公布と施行と共にアルツハイマー型認知症治療薬レカネマブの国内承認が大きなニュースとなりました。認知症へ向き合う際の心構えに対しても微力ながら紹介をしております。

本書が、令和の「認知症のいま」の理解の一助となることを心より願っております。

※AMED：国立研究開発法人日本医療研究開発機構

認知症とは

そもそも、認知症とはなんなのでしょうか？

「認知症」は病気の名前ではありません。脳の認知機能の低下が日常生活に影響を及ぼす状態のことを指します。簡単に言い換えると、脳が縮んだり損傷したりすることで、日常生活に支障が出るようになってしまった状態のことを指します。脳の萎縮や損傷の原因・損傷する部位には様々なものがあるため、単純に「認知症」といってもその原因や症状には様々な違いが見られます。認知症を原因別に

分けた際に、特に多い4つの認知症を四大認知症と呼びます。これらの種類や原因についても企画展会場で展示しています(図2)。

また、認知症の症状とはどのようなものかについても言及した展示をしています。特に認知症と間違えられやすい老年期の物忘れや軽度認知障害(MCI)と呼ばれる症状についてはわかりやすい表を用いて展示しています。



図：認知症の種類と原因



図：会場の大きな脳パネル

だれもが安心できる社会へ

前述の通り、日本では高齢化率が年々上昇していますが、それだけではなく、平均寿命においても世界トップレベルの長寿大国となっています。長寿であることはめでたいことですが、高齢化率が共に上がることで相対的に認知症当事者の割合が増加しているのも現状です。そのような社会では、認知症当事者の生きやすさ及び福祉に関わる人々の負担削減のためにも、だれもが自分の意思に沿って行動しやすいような社会づくりが必要です。本企画展でインタビューさせていただいた若年性認知症のステークホルダーである丹野さんは「認知症当事者が生きやすい社会は、きっと高齢者にとっても子供にとっても生きやすい社会であると思います。」とお話していました。既にそのような社会において、現在ヨーロッパを中心とした世界各国だけでなく、日本国内においても様々な取り組みを行っている例が出てきています。このような事例は、我々がだれもが安心できる社会へ向

けてどのようなことができるのか考える参考になります。本企画展では、既存の事例をいくつか取り上げて紹介している他、実際にドイツにおいて設置された「バスの来ないバス停」を模したコーナーを設置しており、そのバス停の設置理由だけでなく、バス停に座る当事者の気持ちを模擬的に体験していただくことができます。



図：バス停コーナー

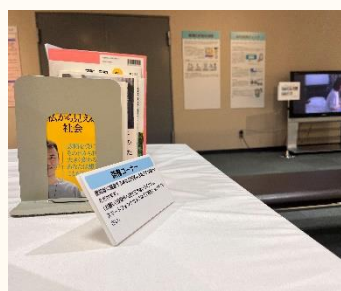
認知症と当事者の想い

認知症は昔、痴呆などと差別的な言葉が使われていました。これは、認知症がどのような原因によって起こる病であるか認識されておらず、その人がおかしくなってしまったと認識されていたためです。しかし、だんだんと原因の調査が進み、認知症は脳が損傷や萎縮したことにより認知機能の一部に障害が見られるものであるとわかってきました。そして、2004年に正式に名前が「認知症」へ変更されました。脳の損傷や萎縮は誰にも起こることであり、長く生きることその確率も高まっていきます。認知症になると「何もわからなくなる」と思われがちですが、そのようなことはありません。認知症になっても様々なことを考える他、自分の意思も持っています。そのため、社会全体で認知症になっても過ごしやすい環境を整えていかなければなりません。認知症になっても過ごしやすい社会、つまりだれもが安心できる社会とはどのような社会なのでしょう？本企画展では、認知

症当事者として広く情報発信をされている丹野智文さんや、林田さんご夫妻に対してインタビューをさせていただき、そこで得られた当事者らの想いを紹介しています。また、認知症についてもっとよく知りたい。と思われる方に向けて認知症について詳しく書かれた本を読むことが出来る読書コーナーや認知症との向き合い方について紹介した動画コーナーを設けている他、2024年に施行された認知症基本法について、わかりやすく紹介した動画も設置しています。



図：インタビューコーナー



図：読書・動画コーナー

続々と開発される抗認知症薬

認知症を知り、正しく認知症と向き合うことで、だれもが安心できる社会を構築していくことが可能になると思われます。しかし、違う対処方法として、認知症自体を抑えることはできないのでしょうか？現時点で認知症を完全に抑えることは難しいですが、進行を抑える薬が続々と開発されてきています。コリンエステラーゼ阻害剤と呼ばれる薬が現在までに開発され、主流になっている他、2024年にアミロイドβの除去に焦点を当てた薬で

あるレカネマブがアメリカFDAと日本国内において承認された他、ドナネマブが現在承認待ちの状態です。企画展では、これらの薬がこういったメカニズムで作用するかについても紹介しています。



図：薬紹介コーナー



企画展図録販売中

『認知症のいま
だれもが安心できる社会に向けて』

A4判 111ページ 2300円

認知症ってなに？認知症になったらどうしよう？
だれもが安心できる社会ってなんだろう？
認知症当事者はどんなことを感じているの？
このような疑問に対して近年の情報をまとめました。
企画展展示では紹介できなかった情報も入れております。

博物館受付での販売もしくはFAXでのご注文・郵送も受け付けております。

FAXでのお申込みは当館HP<出版物・販売物>

(<https://www.eisai.co.jp/museum/information/publication/index.html>) をご覧ください。

2024年度イベント予定表

4月

- ・薬草園ガイドツアー
- ・認知症サポーター養成講座
- ・カモミール収穫体験

10月

- ・企画展ガイドツアー
- ・認知症サポーター養成講座
- ・薬草ハーブガーデンフェスタ

5月

- ・カモミール収穫体験
- ・こどもの日 ショウブ配布
- ・薬草ハーブガーデンフェスタ
- ・企画展講演会&ガイドツアー

11月

- ・学芸講演会「江戸の病と薬」
- ・薬の製造工程見学(工場見学)

6月

- ・押し花体験教室
- ・植物の標本づくり講座(全二回)
- ・ラベンダー収穫体験
- ・薬草園ガイドツアー
- ・認知症サポーター養成講座

12月

- ・押し花体験
- ・ポマnderづくり
- ・クリスマスコンサート

7月

- ・学芸一品ガイド
- ・藍染教室
- ・親子で薬草について学ぼう

1月

- ・ハーブの箸置きづくり
- ・押し花体験

8月

- ・押し花体験教室
- ・企画展講演会&ガイドツアー
- ・薬草園ガイドツアー
- ・認知症サポーター養成講座

2月

- ・薬草講演会
- ・植物についての講演会
- ・アロマ体験教室
- ・認知症サポーター養成講座

9月

- ・レモングラス収穫体験
- ・学芸一品ガイド
- ・薬草園ガイドツアー
- ・ローゼル収穫体験
- ・ステビア収穫体験

3月

- ・企画展講演会・ガイドツアー
- ・学芸講演会
- ・春の薬草講演会
- ・エーザイ川島工園見学会

※イベントは変更になる可能性があります。

最新情報は博物館受付にあるチラシまたはInstagramをご確認ください。



内藤記念くすり博物館

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1 tel. 0586-89-2101 / fax. 0586-89-2197

<開館時間> 9:00-16:30 (最終入場時間:16:00) <休館日> 月曜日、年末年始

<入場料> 無料 <ウェブサイト> 「くすりの博物館」 <https://www.eisai.co.jp/museum>



くすり博物館
instagram